

## 宇検村名柄高齢者クラブ (宇 検 村)

発表者：渡 島 松 雄 氏



皆さん、うがみんしょうろう。こんにちは。

私は奄美大島から参りました宇検村名柄高齢者クラブ会長の渡島松雄です。

名柄高齢者クラブは、男性24名、女性35名、合計59名で集落の65歳以上の高齢者全員が会員です。

まず、私たちの宇検村について紹介させていただきます。

青い海、緑深い山々、おいしい水、入り江深い焼内湾の豊かな自然に恵まれて約1,900名の村民が暮らしています。マグロ養殖、車エビ養殖、真珠養殖、全国的に有名な青い瓶の黒糖焼酎「れんと」、甘いタンカン、マンゴー、自然を生かした産業が盛んです。

また、宇検村は交通事故死亡者数ゼロが8,500日を超えて、現在進行中というのも1つの誇りです。

さて、今回発表のテーマとなった奄美民謡の「かんつめ」のさわりの部分を、元ちとせの歌で聞いてください。

### 「かんつめ節」

かんでいめ姉ぐわや焼内名柄

岩加那 西や真久慈ぬ

恋路隔めて思わぬ苦ていさ

岩加那 西や真久慈ぬ

恋路隔めて思わぬ苦ていさ

習ロワイ知ロワイー 結ダル縁グウヤ

切りリヤナユメ





奄美は民謡の宝庫と言われ、先人から幾千もの唄が歌い継がれ、情緒豊かな旋律は島の津々浦々で今なお聞くことができます。その数多い唄の中で、「かんつめ節」は

多くの島の人に愛唱されている唄の1つです。

江戸時代末期、黒糖づくりのために奴隷同様に働かされたヤンチュと呼ばれる身分だった「かん

つめ」という娘がおりました。この唄は年のころ19、20歳、容姿端麗で心優しい「かんつめ」と、隣村に住む唄と三味線の巧みな役所勤めの青年「岩加那」とのはかない恋物語を歌った唄です。厳しい制度の中、生まれ持った美貌を周囲からねたまれ、虐げられて、ひとり寂しく散った女心をしのび、明治、大正期の頃から誰となしに歌われ始め、歌い継がれてきました。

ここから、本題の私たちの活動についてお話しします。

昭和59年久慈・名柄峠に「かんつめ節の碑」が建立されたのを機に、碑の周辺の清掃と同時に、地域の伝統文化・遺産の継承・保存活動を始めました。さらに、学校と連携して、地域の活性化、学校教育活動の指導・支援・交流学习も行うようになりました。



具体的な内容をご紹介します。

まず、かんつめ節の伝承、そして、「かんつめ節の碑」の郷土の貴重な文化財としての保存のために、グループ当番を決めて、碑の公園内及び周辺道路の清掃活動を毎月2回行っています。この活動は、先輩から引き継いで今年で30年になります。また、全員による美化活動として年2回から3回行い、地域貢献活動として続けています。

集落内にある小学校では、郷土教育へのサポートとして、島口や島唄、八月踊り、大島紬織りの伝承を支援するとともに、学校行事である学習発表会への出席、作品の出品、運動会



への参加、また、児童生徒と高齢者クラブとのグラウンド・ゴルフ大会や給食会、美化活動を通して学校との交流を深めています。こうした活動は、児童生徒の健全な育成だけでなく、高齢者の生きがいにもなっています。

主な活動の成果として5つあります。

1つ目は、「かんつめ節の碑」の建立により、この唄が奄美大島各地に広がり、奄美で毎年開催される島唄大会などで多くの唄者に愛され、歌われるようになったこと。

2つ目は、学校教育でも集落の民謡・島唄として教育活動に取り入れ、児童生徒の郷土愛を育む機会になっていること。

3つ目は、清掃活動が高齢者クラブだけにとどまらず、地域住民、学校の子どもたちへ活動の輪も広がり、自主的に清掃をしたり、花を育てたり、ボランティア活動が増えてきたこと。

4つ目は、子どもたちとの交流を通して、子どもたちの挨拶や思いやりの心、主体性、公共性などの徳の高まりが見えてきたこと。また、奄美の文化・伝統に対する理解、郷土に対する誇りや自信が持てるようになったこと。

5つ目は、学校の教育活動や高齢者クラブの活動自体の活性化が図られるようになったこと。地域住民の人間関係が深まり、集落のまとまりが出てきたこと。

最後になりますが、先輩たちが作り上げてきた「碑を守る。」という1つのきっかけで、物事を継続するということの大切さ及び子どもたちや地域住民のボランティア精神が高まってきたということを嬉しく思っております。

今回いただいた賞を励みに、今後も地域活動に、また、ボランティア活動に力を入れたいと思います。本日は本当にありがとうございました。

きゅうや、あげえでいさまありょうた。

